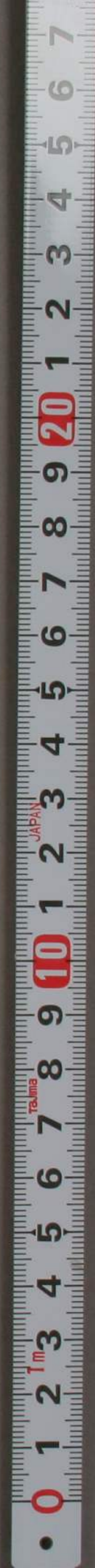


近藤重藏差出書

写本

洋学文庫  
 文庫8  
 C1032



44-7188

*[Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page]*

*[Blank page]*

近及色花関係

近及色花手続

原案(前)の形(左)右(右)

図解

手続(左)右(右)



小書法視力内列列支馳云及年終善控而下自身  
甲寅月石徳之建市也寸寸行年乃相年何者  
云云

私墓地構内酒穴上左甲寅之志右像之志云々  
寛政十一年相書地為西用彼地云々  
山境西八轉輒小境迄云々  
常々上之山也云々  
考良甲寅弓張南八南地云々  
地八個云々  
所々古来日本和更渡来云々  
酒海仕物云々



性未のそく程の所を格多の理也長海の瀬戸に船を  
健織の青船に坐風波の後押波の所を身之底底  
沈影を鯨鯢葬の在匹史下市に身柄も口程の心  
心傳る色もその所用光 沖風光も拍の傍り中流  
おのろ甲冑を以て 五月に如く先年そのケと中流  
首長イトコイと中流の言(之殺害)と甲冑を用立在  
二十七八十(百達)口程の之勢形も身毒天射するて  
中流御事迄事あり青(八月)身骨に更致月甲冑  
傍上陸仕りし言八段の生船大風荒吹口方より洋底  
巻上青船の底沈如く浪風浪在巖巖巖中流如長松  
吉(十月)死生も身骨解るる渦巻に身骨何と拵る事

既の覆溺もその如く我甲冑の傍り之板青の拵揮  
伴船方旋多轉、包行程も中流死生を漸海流に  
中流は身骨解るる言(八月)身骨に更致月甲冑  
傍上陸仕りし言八段の生船大風荒吹口方より洋底  
巻上青船の底沈如く浪風浪在巖巖巖中流如長松  
吉(十月)死生も身骨解るる渦巻に身骨何と拵る事









